

「ダミー・ナイフ」

登場人物

シユン 部屋の住人

女 シユンの母親

男 A

男 B

作・サカイリユリカ

■シーン1

薄暗い、アパートの1室。

男2人組が部屋にこっそりと忍び込んでくる。

男2人が耳打ちするように喋りながら客席の最前列に陣取り、座る。

男A 「いいんですかここで」

男B 「数打ちや当たるさ」

男A 「はあ」

男B 「面白いモンが見られるぞ」

男A 「ほんとスカ それこないだも言っていましたよね」

男B 「いぞ、なんなら賭けるか？」

男A 「やんないッスよ、それよりコレ、早く」

男A、サングラスらしきものをBに手渡し、自分もそれをかける。

玄関のドアが開く音。

部屋、暗転。

明転すると、部屋中央で女が寝そべってくつろいでいる。

シユン、手紙の束を持って部屋に入ってくる。

女 「おかえりなさい」

シユン 「ああ」

女 「なアに、もう、疲れた顔しちゃって…ふふっ、今日も一日、お疲れさま！」

シユン 「…」

女 「あらア、どしたのその手紙」

女、シユンににじり寄りそうとする。

シユン 「……」

シユン、手紙の束を女に投げつける。

薄暗くなる室内。固まる時間。

女、静かに部屋の隅へ移動。座る。

シユン、舌打ちし、クローゼットへ向かう。クローゼットを開く。

羽織っていた上着を脱いでハンガーにかける。

沈黙の間。

シユン あっ

クローゼットの中にかかっている服何着かの中から、スーツ(上着の方)がかかったハンガーを取り出す。

シユン これ・・・

シユン、ふいにそのスーツを抱きしめ顔を埋めようとする。

部屋、明るくなる。

部屋の隅に座っていた女、ふいに立ち上がってクローゼットの方へ歩きながら話をし出す。

シユンの側まで来ると、

女 やだ、それあたしが買ってあげたスーツじゃない・・・覚えてる？オーダーメイドで作ってもらった

のよねえ。ほらアンタ、腕が長いから・・・こんなに埃かぶつちやって・・・虫に喰われてないかしら、

あたしねえ、このスーツ着て会社に通うアンタが見たくて・・・

シユン、そのスーツに腕を通そうとして躊躇。

女 着て見せてちょうだい、見せてほら

強引にスーツを着せようとする女。

女 絶対似合う！カッコいいよ

シユン え、でも・・・じゃあ・・・

シユン、スーツを女になすがまま着させられる。

女 ふふふ、やっぱり良いなあ

シユン そろ、かな？

女 うん、カッコいい

女、シユンを抱きしめ、首筋の匂いをかぐ。

女 あれえ、お風呂、入ってないでしょう？

シユン あ・・・うん

女 『シユンの頭をなで』髪・・・後で切ろうね。ほんともう、シユンちゃんはいつまでたっても

シユン 『・・・何だよ』

女 『可愛い顔しないでえ。』

女、驚いて弾かれたようにシユンから離れる。  
固まる時間。

女、もとの位置(部屋の隅)に移動。座る。

部屋、薄暗くなる。

— 続 —